

土器川生物公園について
～ 地域の風物を生かした川づくり ～

香川工事事務所 副 所 長 阿部 正利
土器川出張所長 川北 豊
技 術 係 長 ○ 岡村 政彦

1. はじめに

土器川は、香川県仲多度郡琴南町の讃岐山脈真鈴峠にその源を発し、山間部を北流し、途中明神川・前の川を合流しながら讃岐平野を貫流し、満濃町・綾歌町・飯山町及び丸亀市を経て瀬戸内海に注ぐ流域面積140km²、幹川流路延長32.4kmの1級河川である。

流域の形状の特色として流域が細長く、幹川平均河床勾配1/100と全国でも有数の急流河川である。気候は瀬戸内海気候区に属しているために、年間雨量は、1,000mm～1,700mmと少なく、その分布も、6～9月の梅雨期と台風期に集中している。

このため雨が少ない時期は瀬切れをおこして乾らびた川となってしまう。枯山水様式もそれなりに趣はあるが、古来より水面はうるおいをかもして心む優しい景観をそなえるので、土器川中流部の霞堤の内部を対象に「自然の中でのやすらぎとふれあい」をテーマとし、水の無い川に人工的に水面を創出することを考えた。そしてここに、石組みと水面である池・水路そして樹木の三要素を組み合わせ、讃岐富士を背景に傑出した自然風景を創造した土器川生物公園を紹介する。

2. 土器川生物公園の概要

土器川生物公園は左岸9km/2附近の丸亀市垂水地先に位置している。この地は弘法大師ゆかりの満濃池をはじめとする溜池群、金比羅宮などの信仰対象神社仏閣など流域をめぐる歴史と文化は人々の生活の中に根づき心のふるさととして親しまれており、また瀬戸大橋の開通(S63)、四国横断道の開通(H4)、国営讃岐まんのう公園の整備、前の川ダムの実調等、流域は著しい地域変容の波を受けつつある。

土器川生物公園誕生の経緯は、このような情勢のなか、丸亀市では自然とのふれあいや、レクリエーション空間の確保等、21世紀に向けてより快適な環境づくりに力を入れている。建設省ではH5年より「自然の中でのやすらぎとふれあい」をテーマに垂水地先10haの河川敷に、親水活動を行うためのせせらぎ水路を整備し、丸亀市も公園整備をH6年より実施しているものである。また丸亀市は当地区に自然科学館の建設を計画している。

平成7年5月1日には、丸亀市長・香川工事事務所長・垂水幼稚園児その他関係者が出席し、土器川生物公園せせらぎ水路通水式を行い、生物公園にふさわしく魚の稚魚とホタルの幼虫を放流しており、平成7年6月1日にはホタルが飛んだことが確認されている。

3. 土器川生物公園の計画と施工について

土器川生物公園を流れる水路は川を模して計画され流域区分によるゾーンニングと訪れる人の行動パターンによるゾーンニングがなされた。

①流域によるゾーンニング

水源地：源流の水の湧き出る所

上流域：岩場渓流の修景

中流域：小さな岩と砂の修景

下流域：ゆるやかに蛇行する水流

②訪れる人の行動パターンによるゾーンニング

上流域動植物観察ゾーン：樹木や流れにすむ生物を観察する。

行楽ゾーン：ピクニックやゲームを楽しむ。

生物観察ゾーン：大きな池にすむ種々の生物を観察する。

施工にあたっては、公園内の樹木は自然そのままにいかすように池周辺の自然林を利用しているほか、土器川の中にはえている木を公園内に移植した。また土器川の護岸に使われていた間知石を利用し、池の底の部分に使用するなど土器川の自然そのものを最大限利用するよう計画した。

平成5年度に施工している水路では平成6年9月の台風によりアップリフトをうけて水路床が破壊し水が吹き出した。そこで水路床にウィープホールを設置する対策を実施した。これは平成6年施工の水路だけでなく平成5年度施工の既設水路にも実施された。その後何回か出水を受けたが異状は発生していない。

4. これからの公園整備について

部分開園した公園ではあるが、まだ下流域水路の施工が残っている。この水路を計画しているところに農業用の排水路がありゴミが多く流れてくるので、水路と分離するか、対策を立てて1本とするか検討する必要がある。また公園管理の課題として、自然のままといっても雑草が生い茂りヘビがはいまわっては人が近づけなくなる。そこでどこまで管理を行うかということが問題になる。これについては試行錯誤をくりかえして結論を得るもので、今後公園利用者の意見を聞く必要があると思われる。

最後に、今はまだ工事中で人工物の印象はぬぐえないが、完成した数年後には周辺の大自然にすっぽりと溶け込んで、天然の河岸にも決して勝るとも劣らぬ河川公園となろう。そしてここは土器川生物公園に隣接して水防ステーションの計画があり、将来丸亀市中部の文化・教育・娯楽・防災の要として発展することを期待してやしてやまない。



完成後1年たったひょうたん池で草が生い茂っている。讃岐富士を背景に心なごむ風景になっているこの草については賛否両論である。

昨年9月に咲いたミズアオイ
これは絶滅危惧種で、7月に定植したものである。他にオニバスがある。

